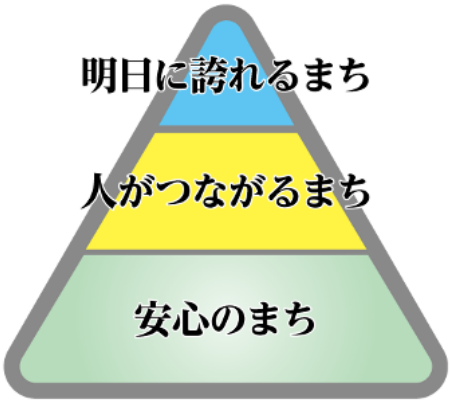
2 令和６年度事業案について

基本的な考え方 「幸せになれるまち、都島区」

- 区民の安全・安心を守る防災・防犯などを礎に、活力ある地域社会の実現にむけて、様々な活動主体の取組を支援し、地域活動協議会（まちづくり協議会）を中心としたコミュニティ活性化につなげる。
- 地域の見守りなど、誰もが安心して暮らすための健康・福祉の充実、子育て・教育環境の充実など、現役世代の活力を生み出す取組を重点的に進める。
- 水と緑の豊かな都島区の魅力を発信し、わがまち意識の醸成をはかるとともに、区民の視点に立ったサービスの向上、質の高い行財政運営に取り組む。



安全・安心のまちづくり

区民の防災・防犯意識を高める啓発に取り組むとともに、警察や地域と連携して、子どもや高齢者の見守り活動等を推進する。

路上喫煙やポイ捨てごみの減少に向けたマナー啓発や放置自転車対策に取り組む。

客引き適正化に向け夜間の街頭啓発に取り組む。

人と人がつながり、助け合うまちづくり

地域活動協議会を軸とするコミュニティ活性化を推進するため、地域住民のつながりづくりやまちづくり参加に取り組む。

孤立しがちな家庭や育児不安を抱えている家庭を支援するため、子育てイベントや子育て相談等を実施し、子育て不安の軽減を図る。

明日に誇れるまちづくり

子どものスポーツ・遊び場などの環境づくりや、区の歴史・文化資源を活かした魅力創出・発信に取り組む。

学習支援を含む「子どもの居場所」を開設し、子どもを支える環境の充実に取り組むなど、未来の都島を担う人材育成のための取組を推進する。

区役所力の強化

職員の接遇スキルアップによる窓口サービスの向上、人に優しい庁舎づくり、情報発信力の強化を進めるとともに、ICT の活用による業務効率化など質の高い行政運営に取り組む。

2 令和６年度事業案について

安全・安心のまちづくり

防災のまちづくり・防犯のまちづくり・安全で美しいまちづくり

現状・課題

防災
災害への備えを意識しているが実際に備えをできていない区民が一定数いることから、意識と行動が伴うよう、防災・減災の知識を高める啓発活動が必要と考えられる。

防犯
近年、区内での犯罪発生件数が増加していることから、警察や地域と連携した啓発活動が、すべての区民に対して十分に行き届いていないと考えられる。

美しいまち
人の往来がさらに活発になる中、環境美化活動や夜間の環境啓発活動を継続している一方、ごみや放置自転車などに対する苦情が依然として多く、市民協働による環境美化取組の強化が必要と考えられる。

事業の方向性

安全で安心なまちづくりをめざし、区民の防災・防犯意識を高める啓発に取り組む。また、広報誌やホームページ、SNS など様々な手段を活用し、より効果的な情報発信に取り組む。

取組案

- 防災日頃から災害への備えや、迅速な避難行動につなげていくため、高齢者や子育て層など支援が必要な世帯に向けた啓発活動や地域防災活動への支援、災害時における要支援者のための個別避難計画の作成に取り組む。
- 防犯青色防犯パトロール車による巡回や警察や地域と連携した防犯啓発等に取り組むとともに、区独自の啓発活動や広報媒体を活用した防犯情報の発信及び街頭犯罪を抑止する環境整備に取り組む。
- 美しいまち環境美化活動及び夜間の環境啓発活動について、誰もが安全に通行できるまちをめざし、引き続き取組を推進する。

◀職員による地域安全対策（青色防犯パトロール）事業
地域見守り隊の皆さんと共に児童の安全確保や警察と連携した犯罪情報の即時アナウンスなどを行いながら、区内を巡回している。

◀地域防災活動への支援事業
地域防災訓練において、本市職員による講座を行い、避難行動や平時からの備え等について啓発している。

◀都島クリーン作戦
年２回、区内全域及び３拠点でボランティア清掃活動を実施し、環境美化意識の向上を図り、路上喫煙やポイ捨てごみのない美しいまちをめざしている。

◀環境啓発活動
京橋地域全体で歩行者が快適に通行できるよう、京橋地域の安全なまちづくり連絡協議会による月 2 回の夜間環境啓発活動に取り組んでいる。

2 令和６年度事業案について

人と人がつながり、助け合うまちづくり

安心して子育てできるまちづくり

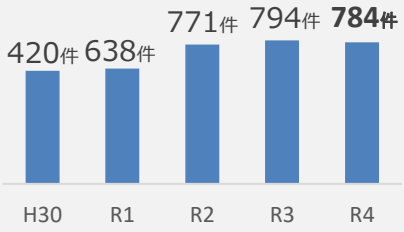
現状・課題

乳幼児健診、関係機関の訪問及び子育てイベントなどを通じて育児相談を実施し、育児不安や悩みの軽減・解消等に取り組んでおり、相談件数は増加傾向にある。

要保護児童対策地域協議会の運営により、児童虐待の未然防止・早期発見・アフターケアの各々の段階に応じた対応を実施している。

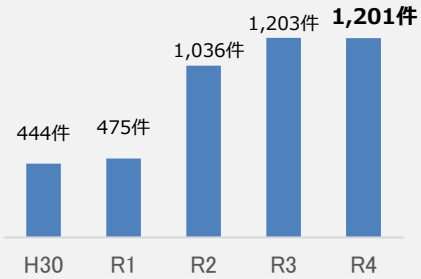
発達障がいやその疑いのある児童生徒が、学校や家庭に適応できず不登校や引きこもりになるケースが増えている。また、年齢が上がるにつれて、問題行動への対応に苦慮している保護者も増えており、臨床心理士への相談件数も増加傾向にある。

子育て支援室における相談件数



相談件数は増加傾向。今後もきめ細かな支援が必要。

臨床心理士による福祉相談



令和２年度より、臨床心理士を２名配置。サポート内容も多岐にわたる。

事業の方向性

子育てに関する相談対応や情報提供等により育児不安の軽減を図る。

臨床心理士等の配置や研修等により、発達障がいや不登校等への対応を支援する。

取組案

- 身近に相談できる場所として子育て支援室や子育て支援施設の情報を発信する。
- 臨床心理士等による福祉相談、支援関係者・保護者を対象にした発達障がいに関する研修等を実施し、発達障がいや不登校などの課題を抱える児童生徒やその家族への支援を行う。

▲子育て EXPO にて、子育て相談を同時開催
保育所、認定こども園、幼稚園など今後の入園先などの相談と同時に、子育て支援施設の案内や、乳幼児健康相談、子育て相談も同時開催し、気軽に相談できる場を提供した。

2 令和６年度事業案について

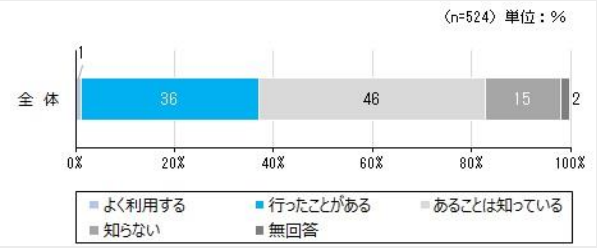
明日に誇れるまちづくり

魅力あるまちづくり

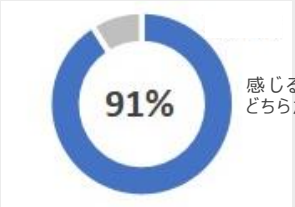
現状・課題

区の恵まれた自然環境、歴史文化などの資源が魅力向上や活性化に活かしきれていない。新たな魅力の発掘や情報発信が不足している。新たな魅力の創出・発信により、さらなるわがまち意識の醸成を図る必要がある。

令和４年度区民アンケート「桜ノ宮ビーチの認知度」



令和３年度区民アンケート「区への愛着を感じる割合」



事業の方向性

水辺などの区内の魅力スポットでのイベントなどを通じて、魅力の創出・発信を行う。

取組案

区民とともに区の魅力を再発見・共有・発信を行い魅力向上につなげるとともに、わがまち意識の醸成をはかる。

◀桜ノ宮ビーチフェスティバル（10月21日開催）

大阪ふれあいの水辺（桜ノ宮ビーチ）の利活用を進めるため、共催として参画。区が担当した「砂遊びひろば」には300名程度の申込があった。

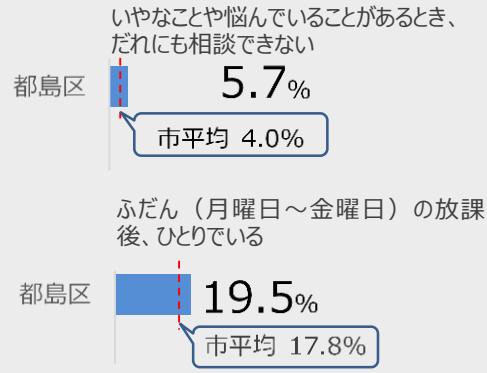
未来の都島を担う人材育成

現状・課題

子どもを支える人や場が不足しており、学びや遊びを通じた子どもの成長の機会を保障する支援が必要。

「子どもの生活に関する実態調査」(28年度実施)

小中学生へのアンケート



事業の方向性

学校や地域団体等と連携し、学習支援を含む居場所づくりを推進し、子どもたちの成長の促進を図る。

取組案

学習支援を含む「子どもの居場所」を開設するとともに、多様な主体による「子どもの居場所づくり」を推進することで、子どもを支える環境の充実に取り組む。

◀都島区小学生サポート事業

区内の小学生を対象に、学習支援や悩み相談を行う居場所を区内全９地域に開設。

2 令和６年度事業案について

区役所力の強化

区民の声が区政に反映される仕組みづくり

現状・課題

- 現在の区ホームページは、暮らしの情報をはじめ、目的のページがどこにあるか分かりづらいという意見がある。
- 区ホームページ、SNS における情報発信について、媒体の特長を十分に活かした発信を行い、効果的に情報を届ける必要がある。
- 区広報誌の誌面について、くらしの基本情報をはじめ、区民にとって必要な情報を分かりやすく、そして区ホームページや SNS と連動した効率的な情報発信を行う必要がある。

事業の方向性

区民、そして区外からも都島区の情報が得られるよう情報発信に努める。

取組案

- 区ホームページについて、誰もが見やすく、情報にアクセスしやすいものとなるよう、改善していく。
- 区広報誌は、くらしの基本情報を充実させつつ、タイムリーな情報にアクセスできるよう、二次元コードで区ホームページに連携するなど、区広報誌と区ホームページを連携させた情報発信を行う。
- 大阪市 LINE が令和 5 年に機能が拡充されたことに伴い、都島区においても大阪市 LINE のセグメント配信により、区民が携帯できる行政情報源として活用いただけるように充実していく。

広報コンテンツのイメージ